生徒指導の機能を生かし，夢と希望を育む教育

～いじめ，不登校，問題行動等に対し積極的に対応する教育の推進～

Ⅰ　はじめに

社会環境が大きく変化する中，様々な問題が生じ，児童の豊かな人格形成に影響を及ぼしている。学校は，児童の健全な発達を促し，児童が夢や希望をもって，安心して学校生活を送ることができるように生徒指導の充実に努めなければならない。本部会では，生徒指導上の課題の動向・状況等についての把握と対応について，学校経営の立場から研究協議を重ねてきた。

Ⅱ　研究の概要

1.　生徒指導に関する動向・状況と期待される対応について把握するために，峡東教育事務所SSW工藤弥生先生を講師に学習会を行った。

（1）工藤SSWは生活指導上の問題を次のように分類された。

不登校　いじめ　暴力行為　児童虐待　友人関係（いじめを除く）　非行・不良行為（暴力を除く）
家庭環境の問題（児童虐待を除く）　教職員等との関係の問題
保健に関する問題　発達障害に関する問題　貧困の問題（家庭環境を除く）

（2）問題が起こっている原因について

生徒指導上の問題を，「個人の状況」「生活環境」「相互関係」といった要素で捉える。問題は個人因子や環境因子の相互作用や複合的な関係によって変化していくことに留意し，「心身機能」や「活動」「参加」といった生活機能の向上を図るという視点をもって，問題解決に向けたアプローチを考えていく。問題が発達障害に起因していると考えられる場合は，保護者や家族の成育歴等についても把握していく。発達障害に起因した問題では，SSWがアプローチする事例が多くなっている。

（3）喫緊の課題とは

子供の不安は拡大し，厳しい状況が続いている。自殺や鬱病に関わる現状も深刻である。こうした状況を背景として，いじめや不登校などが起きているとの認識を深めていきたい。さらに，子供たちが性犯罪や暴力事件などに巻き込まれる事案が増加していることや被害に遭った子供の脳が傷つけられ，回復には相当の時間がかかることも理解しておきたい。

（4）課題に対する対応について

「チーム学校」として連携して対応を進めていくことが大切である。管理職は，対応の中心的役割を担う。外部機関も含め，それぞれの役割分担は次のとおりである。

◇SC～本人家族へのカウンセリング（過去から現在）
◇SSW～本人家族へのカウンセリング（現在から未来）
◇養護教諭～教育カウンセリング（医学的知識をもっている）
◇特別支援コーディネーター・特別支援スタッフ～特別支援（知識をもっている）
◇担任教師～本人・家族の最も身近な支援者
◇校内のスタッフメンバー（専科・支援員・学校事務・主事の先生等）～別の観点をくれる
◇主治医～支援の司令塔（医学的な見立てを提供）

◇他の自治体の支援スタッフ（NPO・市役所・センター等）～連携して効果（連携不可欠）

（5）まとめ

○対応を進める上でキーパーソンは２人必要である。（一人は校長であるべき）

○連携を軸にした支援の一本化が大切である。

○オープンスペースや修復的対話の取り入れを子供集団に使う。保護者への面談においても必要に応じて取り入れていく。

2．各校からの事例報告を通して，次の視点で，学校経営の立場から研究協議を行った。

①問題行動等の早期発見・未然防止

②児童の健全な成長や発達を育む指導体制づくり

③保護者，地域，関係機関との連携

④生徒指導の充実

各校の事例内容については割愛し，具体的な成果と課題として次の内容を報告する。

指導体制づくりの中核として

○課題解決のためには，全教職員が役割を担えるような指導体制づくりを進める。特に，問題の早期発見や未然防止のために，情報や指導方針の共有化は大切である。「共有化」が効果的に機能するベースは，組織的・協働的に意欲をもって動ける体制づくり，問題に真剣に向き合う姿勢のある組織づくりである。

○教職員一人一人に危機管理意識をしっかりともたせたい。問題に適切に対応できるように，状況を的確に把握させ，子供との日常の関わりを大切にさせたい。また，日々，電話や連絡帳などで必要な連絡をとらせるなど保護者との連携にも十分に配慮させたい。

○校長は，効果的な教育課程の編成・実施に努め，教職員の研修や子供に向き合う時間の確保などにも留意し，生徒指導体制づくりの中核としての役割を果たしていきたい。

連携のリーダーとして

○生徒指導上の問題に対応するにあたり，課題の把握を適切に行うことが大切である。正確に課題把握をするには，SC や SSW など専門的知識を有する外部機関の関係者の協力を求めていきたい。指導方針を定めたり，取組を組織的に徹底したりする上でも効果的である。

○問題の要因が重層的で，それがいじめ・不登校等の問題も派生させ，子供の脳を傷つけるなどの事例の解決に向けては，教育領域の支援だけでなく，心理，医療，福祉面等の専門的な支援が望まれる。支援を得る働きかけを考え，進めていく。

○専門分野の人々と連携し，当事者である児童や保護者を中心に据えた指導・支援体制づくりを進めていく。SC・ SSW や主治医，自治体の支援スタッフ，養護教諭・担任教師・その他の校内のスタッフとの連携を整えるとともに，効果的な役割分担を構築する。

Ⅲ まとめと課題

校長がリーダーシップを発揮し，方向性を示し，保護者や地域，関係諸機関と連携する中で体制を整え，組織的に対応することの重要性を再確認できた。校長は学校の実態に合った体制を整えるとともに，自らが問題の解決に積極的に関わっていきたい。そのためには，様々な情報を正確に把握し，チームとしてどう進めるかを語れる「最終決断のできる校長」たるべく，常に情勢を学び，識見を高めていきたい。

（部長　岩森真由美）